

無くせ 長時間労働②

2019年6月和泉市議会本会議での、「教職員の長時間労働」についての質疑の連載です。「問」は早乙女実議員、「答」は大槻亮志教育指導監です。

問「(学校閉庁日は)原則として業務休止ということなんですけども、じゃ部活動なんかはどうされるのかということがちょっとわかりにくいんで、この点の補足をお願いします。」

答「部活動につきましては、和泉市立学校に係る部活動のあり方に関する方針並びに各学校の部活動に係る活動方針に基づき、各学校で学校閉庁日における部活動の取り扱いについて判断することとなります。」

なお、各学校長には、所属教職員に対し、学校閉庁日の取り組みの趣旨である長時間労働の解消及び休暇取得の促進につ



いて、十分な説明を努めるよう求めています。」

問「そもそもこういう長時間勤務、労働の原因とこのをどういうふうに認識してるかというのは、改めてここでちょっと確認をしておきたいと思えますんで、市として本市の学校における長時間勤務・労働の原因をどのように認識されているのかお聞かせください。」

答「長時間勤務の原因につきましては、教育を取り巻く現状として、学校や教員の業務が拡大し多様化していることや、長時間勤務改善に対する教職員1人1人の意識をさらに高める必要があることなどが課題であると認識しております。」

問「現状の教員の持ち時間数はどういうふうになっているのかお聞かせいただけますか。」

により多少の差異はありますが、週平均26コマ程度となります。中学校におきましては教科担任制であり、また担任の有無などもあります。おおよそ週平均18コマ程度となります。」

問「もともと国の基本的な考え方というのは、教員1人当たり1日4コマ、週24コマとされてたと思ふんです。それを満たすための目標に定数を定めたという、こういうスタートがあったと思うんです。」

ところが、週5日制が実施されたときに、当然コマ数が減らなきゃいけないんだけど、ふえるわけですからね、これまでのコマ数を5日で割れば。さらに、国の基準を上回る授業数を国自身が求めてきたという、そういう矛盾したこともやってきたということがありますし、さらには、国の標準そのものも今見直しをかけてるといって、こんなところがあるというの、もう全く逆行してるんじゃないかなという点がある

投稿

森友学園補助金不正事件裁判傍聴記

3月8日 専門委員 岡澤文彦

ということ是指摘をしておきたいと思います。

さらにお聞かせいただきたいんですが、今授業時間の関係で聞きましたけども、教員の業務その

ものがふえてきてるんじゃないかと思うんですが、この点についてお聞かせください。」

答「ここ数年で情報化社会となり、変化の激しい

今日において、また保護者等の価値観も多様化する中、個々のニーズにできる限りの対応をしている教員の業務は増大していると感じております。」

裁判当日までのテレビや新聞報道もあり、全国的にも注目されていたので傍聴希望者は600名を超える状況。

私も列に並びましたが54名分の抽選には外れてしまいました。この裁判は森友学園の籠池前理事長夫妻が詐欺を行なったとして起訴されているものです。被告人の主張は「口封じのための国策捜査だ」としています。私は籠池夫妻は幼稚園児に教育勅語を暗唱させたり、職員の増し、障害児の補助金を不正申請したりしているの、当然責任は取るべきだと思いますが、一方次の

人達が裁判に出てこないのであれば「国策捜査」との主張はあたっていていると思います。開設される小学校の名誉校長となつた安倍昭恵氏や「私が事件に関与していたら総理大臣や国会議員を辞めます」と強弁した安倍首相。国有財産である土地をゴミが埋まっているとして8億円もの値引きをした財務省の役人、この人達は首相の意志を忖度したのでしょうか、この後文書の改ざんなどを行ないました。小学校の認可基準を突然ゆるめた松井大阪府知事や学校の認可条件が整



われないのに認可した大阪府私学課の役人。これらの人が裁判に呼ばれないのでは真実は明らかにされず形式的に籠池氏らを有罪にするだけに終わってしまうかねません。おおもとの国や府の権力をもつ人達が何の責任を問われないままでは納得できません。今後どのように裁判が展開していくのか、継続して見守って行きたいと思っています。